

NHKへの抗議

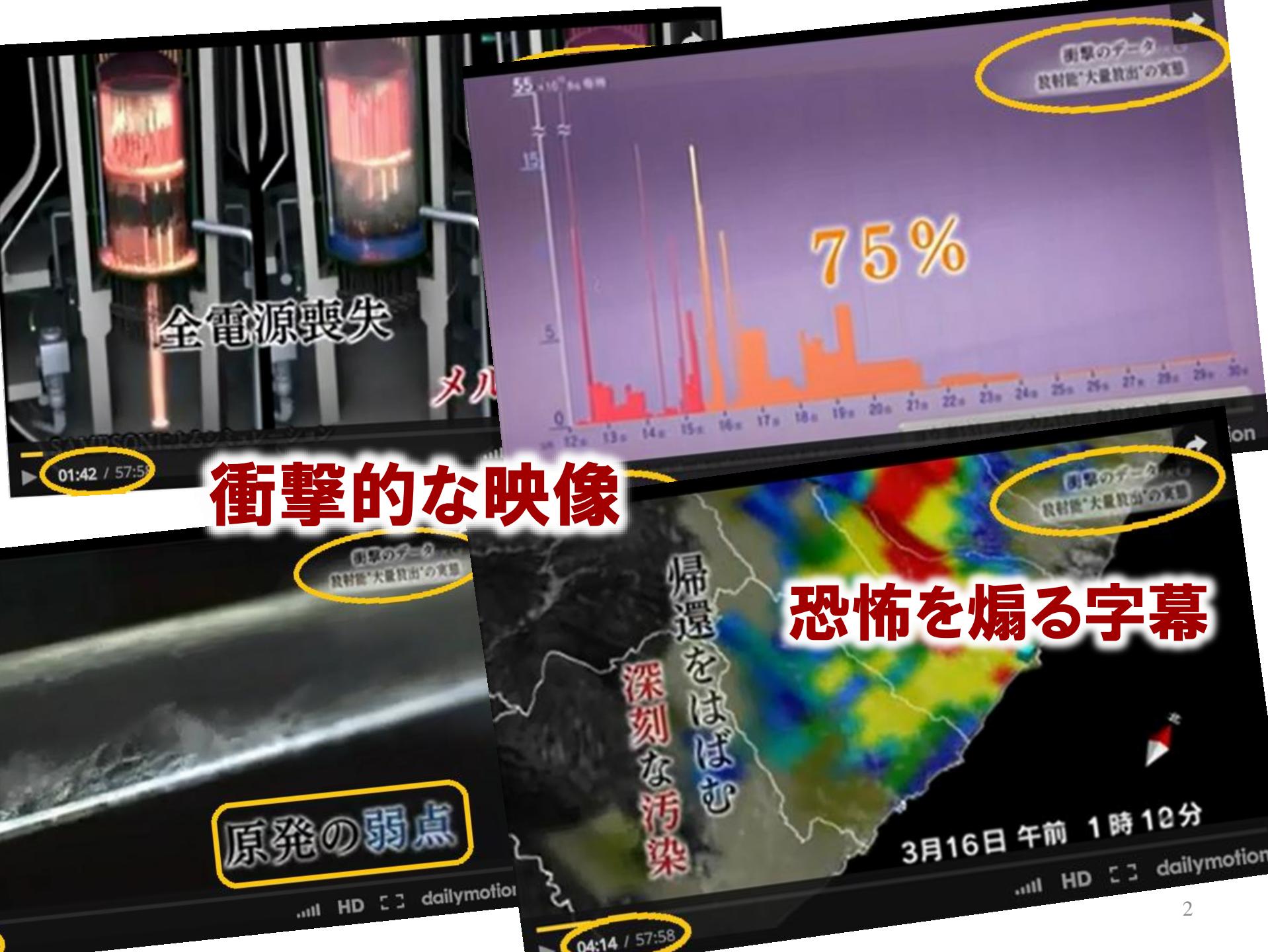
— 原子力報道の在り方を問う —

2014-12-21放映 NHKスペシャル

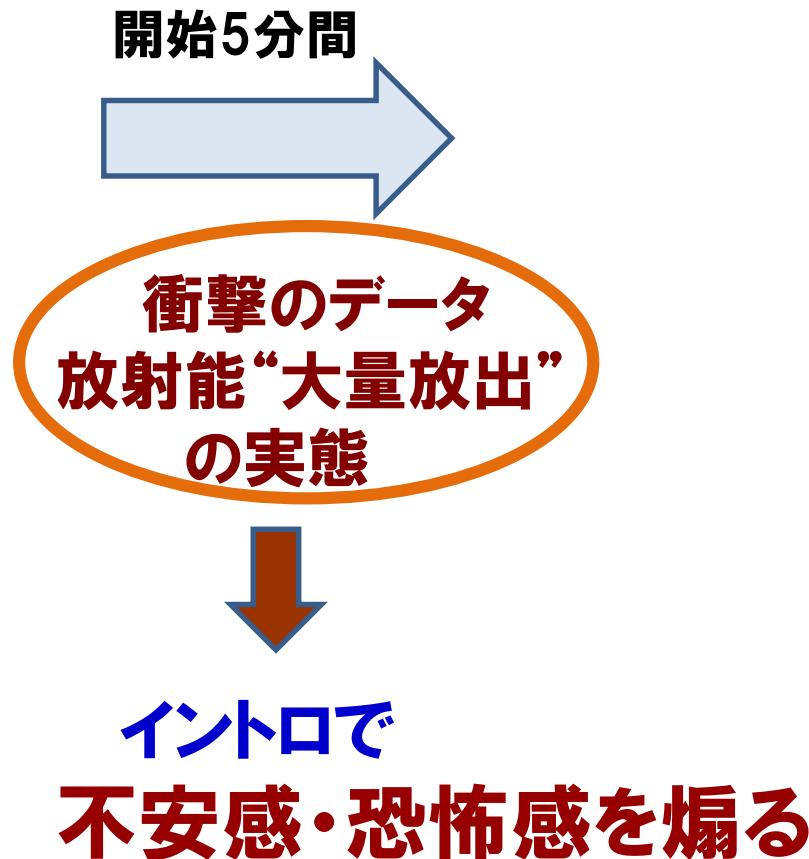


2015-10-3

第16回SNWシンポジウム 小川 博巳

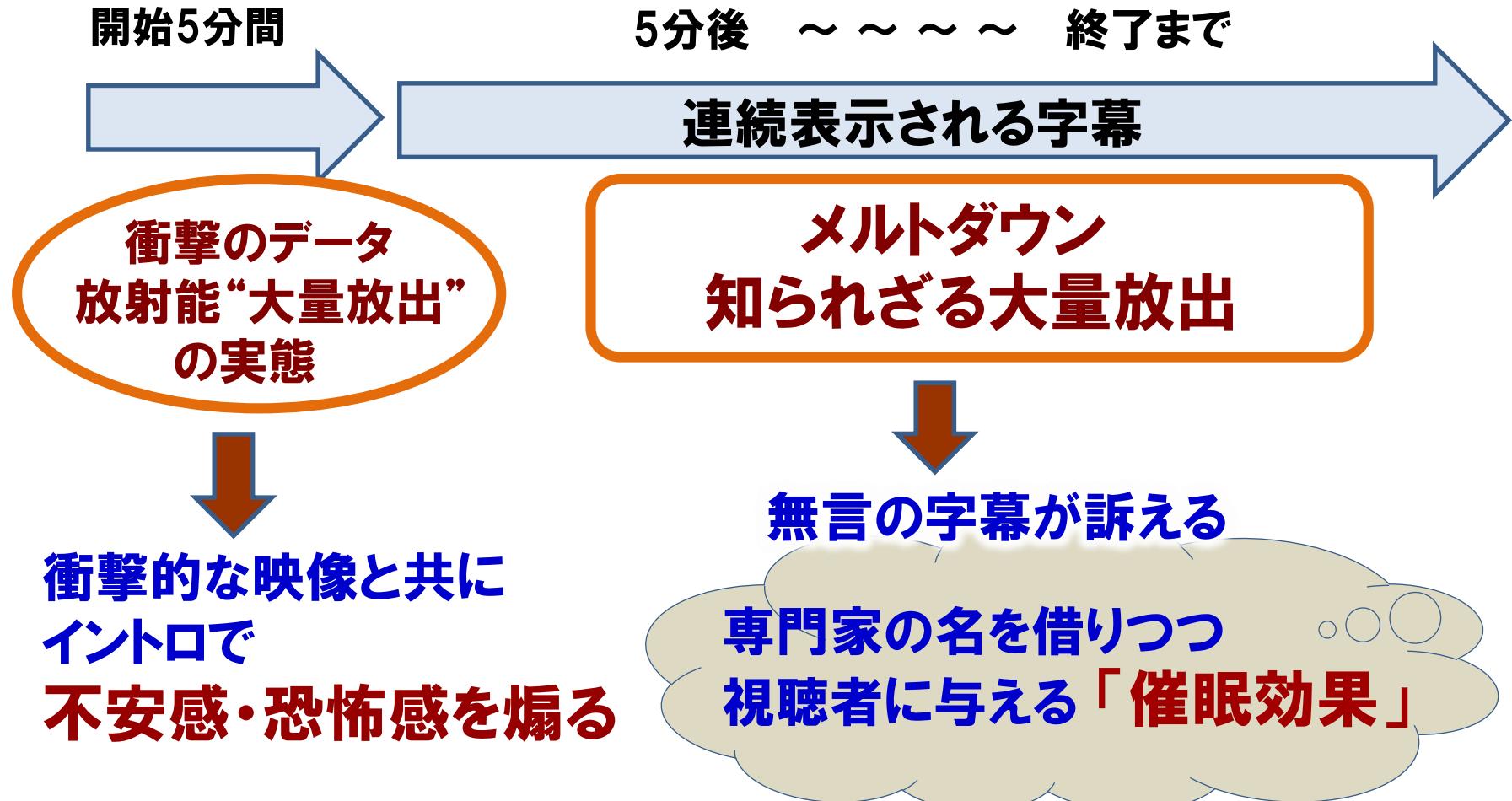


十分な説明も無いまま 冒頭部分から
衝撃的な映像と 恐怖を煽る字幕が続く





十分な説明も無いまま 冒頭部分から
衝撃的な映像と 恐怖を煽る字幕が続く



衝撃的な映像と共に
イントロで
不安感・恐怖感を煽る

シーン毎の疑問・問題点・間違いの指摘

3



〈ナレーション〉
福島第一原発は巨大津波によ
つてすべての電源が失われ3
つの原子炉が次々とメルトダ
ウンしました。

さらに1号機と3号機の建物
が爆発。

これまで放射性物質の大半は
事故発生から最初の4日間で

〈「考証」著者から指摘〉
考証著者の石川迪夫氏が指摘
国プロや学会などで十分な議論を
経て検証されたものか？

〈事実歪曲〉
汚染がひどくなったのは、飯
館村に風が吹いていた3月15
日以降であったことは、当時
の報道で広く国民に知られて

これまで放射性物質の
事故発生から最初の4
日間で広く国民に知られて
いたことは、明らかに事実歪曲である。



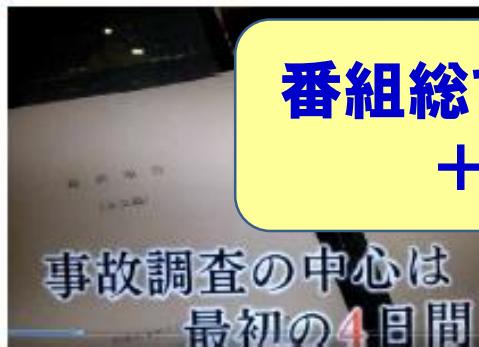
2015.1.15付
電気新聞
ウェーブ記事

文献3~7
図1



第1章・解説1

全64頁



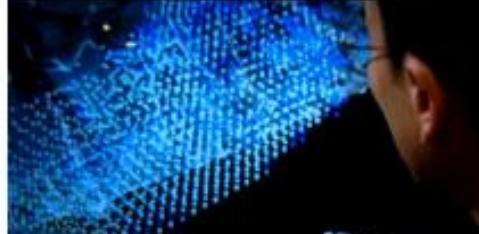
調査など国がこれまでに行つ
た事故調査はこの4日間が中
心でした。しかし、その放出
は全体の一部に過ぎませんでした。

「事故調査の中心は最初の4日間」と
は明らかに事実歪曲である。
原子力安全保安院などの国の
調査報告書には、4日間以降
の汚染がひどくなかったデータ
を多数掲載している。



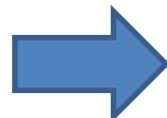
文献2

4



NHKスペシャル（約1Hr 放映）

指摘された間違い・問題点は約60件（毎分1件）



間違いの指摘に基づき 抗議は明白な4点に絞る

1. 「知られざる大量放出」は事実に反する
2. 「ベントで大量の放射性物質が放出された」は事実に反する
3. 「3号機への少量の冷却水注入が却って放射性物質の発生量を増やした」は事実に反する
4. 「マニュアルなんて全然できていません」は事実に反する

「NHK倫理・行動憲章」と「行動指針」

「NHK倫理・行動憲章」 (20.10.15改定)

本憲章に反する事態が発生したときは、迅速に調査と原因究明にあたり、再発防止に努めるとともに、社会への説明責任を果たします。

「行動指針」 (27.4.1改定)

正確な放送を行い、事実をゆがめたり、誤解を招いたりする放送は行いません。事実との相違が明らかになったときは、速やかに訂正します。

NHK抗議・私どもの要望

- ① 私達が指摘した諸問題事項について、真摯に検証し、反省をお願いしたい。
- ② 放送後、事実と異なる放送内容であったことが判明した際には、そのことを適切な形で全国の視聴者に伝えるとともに、今後の原発再稼働問題 或は原子力の安全性等について公正・公平な番組の制作と放送をお願したい。
- ③ NHK放送倫理規定を厳格に遵守し、常に公正公平な報道に努めて頂きたい。そのためには、倫理規定に反しているとの抗議文が出ないように、放送する前に放送内容に関して、専門家の別の視点から再確認をする手続きを踏んで頂きたい。

NHK抗議・BPO申し立て

NHK会長宛 ①2015/2/1付 ②2015/3/1付 ③2015/5/16付
NHK回答 H27/2/5 H27/3/17 H27/8/27

NHKスペシャル「メルトダウンFile. 5 知られざる大量放出」への抗議と要望

放送倫理・番組向上機構(BPO) 2015・2・1付
放送倫理検証委員会宛

NHKスペシャル「メルトダウンFile. 5 知られざる大量放出」(2014年12月21日放送) の審理願い

(注記) NHK抗議・BPO申し立て関連資料は、下記HPをご参照ください。

SNW・HP: <http://www.aesj.or.jp/~snw/>

エネルギー問題に発言する会: <http://www.engy-sqr.com/>

日本放送協会 会長 粕井 勝人 殿

大型企画開発センター エグゼクティブ・プロデューサー 菅野 利美 殿

『NHKスペシャル「メルトダウンFile.5 知られざる大量放出」
貴協会の再回答(20150318付)への再々要望と事実に反する確認書』

拝啓

時下、益々ご健勝のこととお慶

当該番組の放送内容について、
せて戴きました。その都度、迅速
ざいます。しかしながら、私ども
行線の状態になっていることが残
言うまでもありませんが、視聴
的な科学技術には精通しております
当該番組の放送内容を“視聴者が
を述べ、問題点を指摘しました。
がどの辺にあるかをより正確にご
再々要望として纏め、また事実に反する確認書に整理いたしました。

[資料の構成]

1. NHK再回答(150318)への再々要望
特に重要だと思われる4項目とします。
2. 事実に反する4項目の確認書
(4項目は上記と同じ)
3. 添付資料
 - 添付資料1 「3号機のベントに関する検討」
 - 添付資料2 「崩壊熱とジルコニウム・水反応に関する検討」
 - 添付資料3 「3月15日の放出源は2号機である」
 - 添付資料4 「シーン毎の疑問・問題点・間違いの指摘」

貴協会が専門家のご協力のもとに行なった検討結果については、学協会等に開示し広く議論することができる場を設けることを要望します。

事実に反する4件の確認書

(1) 「知られる大量放出」は事実に反する

| 区分 | 映像No. | ナレーション | “事実ではない”内容とその理由 |
|-------|-------|---|--|
| (1)-1 | 3 | これまで放射性物質の大半は最初の4日間で放出されたと考えられていました。 | 「知られる大量放出」は公知の事実である 「2回目の要望書」では16件の参考文献を引用して *3年前の論文でも5日目以降の放出比率は75%以上占めていた *5日目以降の放出量が多いことは専門家の研究でも公知の事実だった *知られる衝撃の大放出としたピークは3年前の論文にも記載されている *衝撃の大放出は1ヶ月後にはほぼ終了する |
| | 4 | 今回新たなデータを解析し専門家とともに映像化、結果は衝撃的なものでした。 | |
| | 6 | 最初の4日間で放出された放射性物質は全体の25%に過ぎませんでした。その後二週間にわたって全体の75%もの放出が起きていたのです。 | |
| | 7 | この結果、全体の75%もの放出が起きていたのです。 | |

(2) 「ペントで大量の放射性物質が放出された」は事実に反する

| 区分 | 映像No. | ナレーション | “事実ではない”内容とその理由 |
|-------|-------|---|--|
| (2)-1 | 40 | 十五日の午後以降翌朝までの時間帯をみてみると北西方向に放射性物質の濃度が極めて高い場所が現われました。この汚染をもたらしたもののが今回新たに分かった全体の10%を占める放出だったのです。 専門家が注目したのはこの時間帯に放出された放射性物質の種類です。 | ヨウ素の濃度から原因をペントとするのは即断過ぎる ヨウ素の濃度が高まつたのはこの時ばかりではなく、3月21日以降にも高まっていることを「2回目の要望書」で指摘しましたが、「その原因は不明で今後の検討が必要だ」との回答でした。科学技術的に未解明のままです。 |
| | 41 | 専門家が注目したのはこの時間帯に放出された放射性物質の種類です。 | |

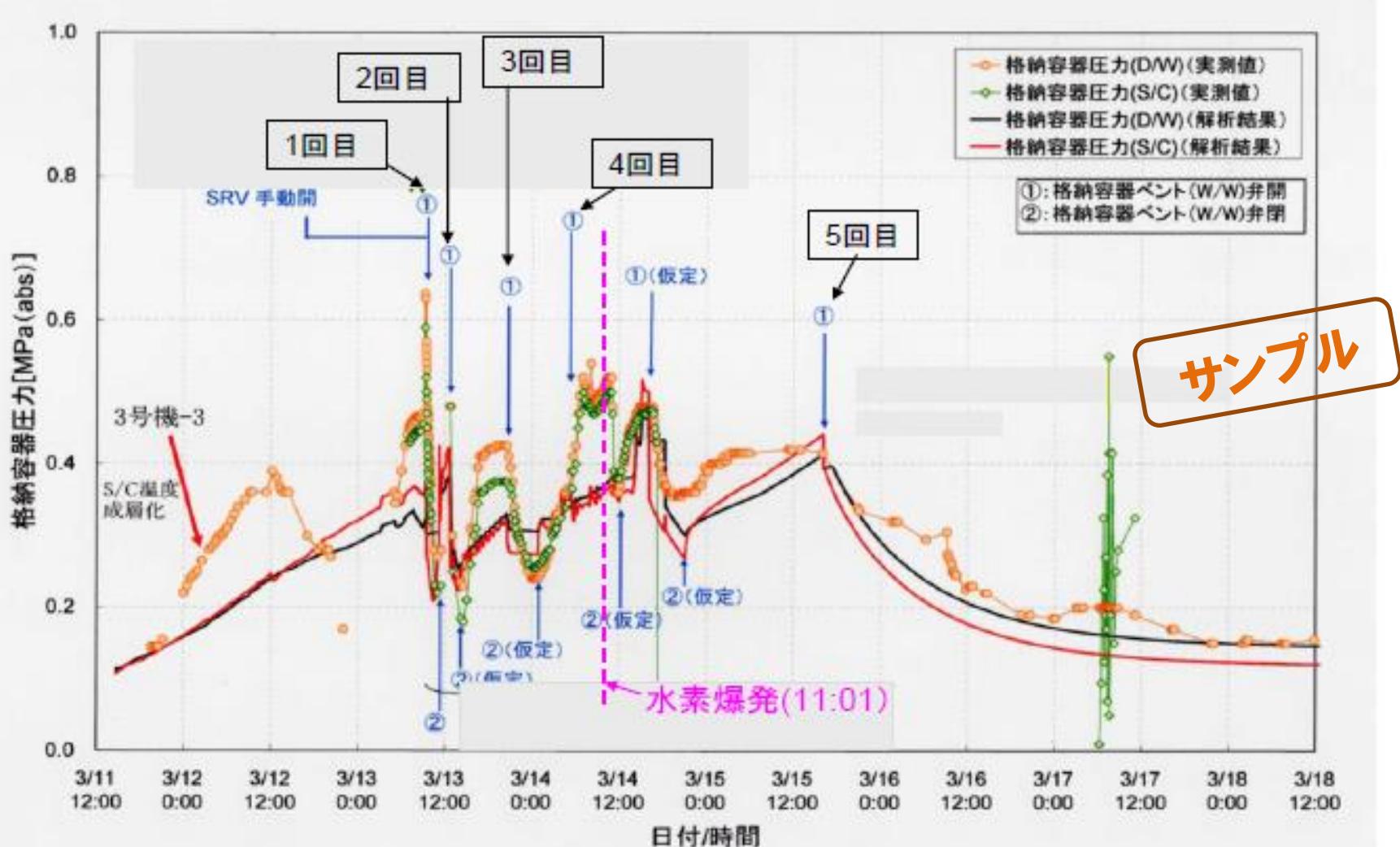
(3) 「3号機への少量の冷却水注入が却って放射性物質の放出量を増やした」は事実に反する

| 区分 | 映像No. | ナレーション | “事実ではない”内容とその理由 |
|-------|-------|---|--|
| (3)-1 | 30 | 「水を入れたことによって溶けていなかった燃料の温度がさらに上がる。で、また溶けだす」。メルトダウンは中心部に残っている状態でした。 溶け残った核燃料のメルトダウンを防ぐためにはすべて水で浸す必要がありました。しかし実際には水 | 崩壊熱量とジルコニウム-水反応熱量について(説明) 3号機は13日の未明から炉心冷却ができなくなりました。その後、電源が復旧した22日までの約10日間は消防車からの注水が続けられました。その10日間における発熱量の内訳は、放射性物質からの崩壊熱量が約94%を占め、ジルコニウム-水反応熱量は約6%です。 |
| | | | |

(4) 「マニュアルなんて全然できていません」は事実に反する

| 区分 | 映像No. | ナレーション | “事実ではない”内容とその理由 |
|-------|-------|----------------------------|---|
| (4)-1 | 7 | 「そもそもマニュアルなんて全然できていませんからね」 | 私どもは、原子力発電所の運転のために詳細なマニュアルが整備されており、そのマニュアルに基づいて訓練が行われてきた実状を熟知しております。一方で、今回の福島事故の実状を振り返ると、貴協会が提示された資料に記載されている内容を含めて、マニュアルや施設・設備に不備があり、訓練が不足していたことも理解しています。 貴協会もその実情は今までの二回にわたる情報交換によって十分理解して戴いていると推察いたします。 そこで、一般視聴者を念頭において、再度確認させていただきます。左記の原子炉の専門家の発言は番組冒頭部分で紹介されたものです。 貴協会の「正確な放送を行い、事実をゆがめたり、誤解を招きたりする放送はおこないません」という行動指針に沿った考え方でどうぞお考えください。 |

添付資料1 3号機のヘントに関する検討



出典：石川迪夫著「考証 福島原威力事故 “炉心溶融・水素爆発はどう起こったか”」
東京電力「福島原子力事故調査報告書」より作成

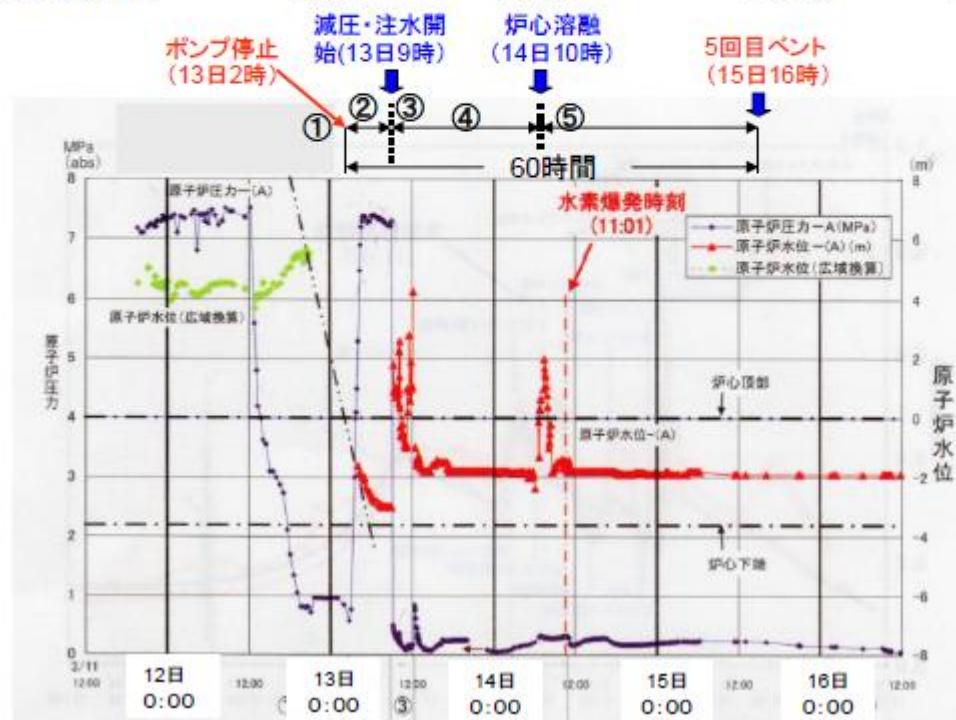
添付資料2

崩壊熱とジルコニウム-水反応に関する検討

図1 3号機の炉心の状態(13日未明～15日16時)



サンプル



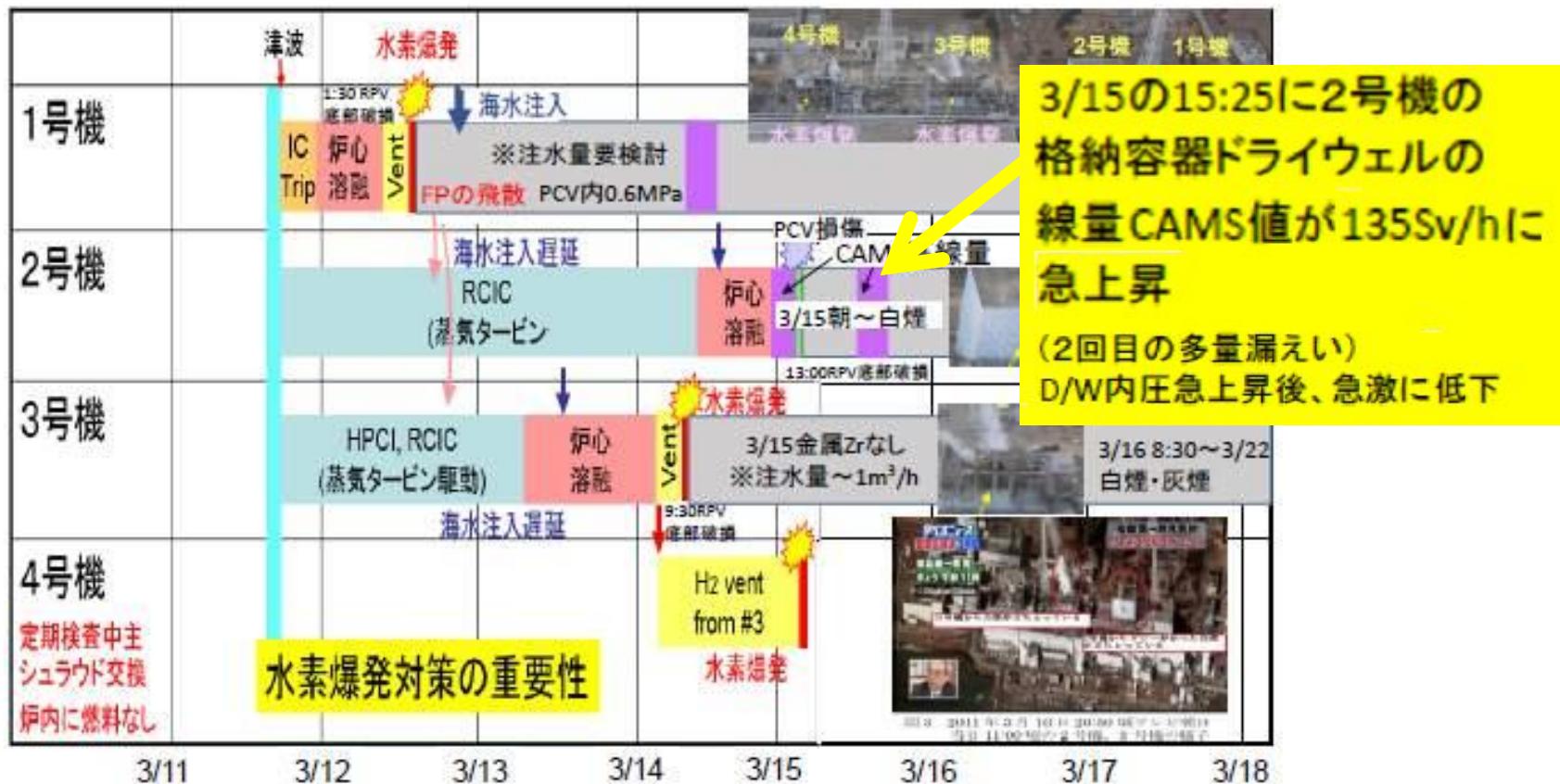
- * 13日10時頃までに
炉心に装荷されていたジルカロイは
殆ど全て水蒸気と反応したと
推定される。
- * その時点で若干のジルカロイが
残っていても 15日16時までには
全て反応し尽くしていたと
推定される。

添付資料3 3/15の報出源は2号機

IHKが3号機の5回目のベントで地元を汚染したと言っていた事象は、
勿理的には起こりえない事象であることを確認。

2号機の原子炉から格納容器に多量の放射性物質が放出されたことが
原因である可能性が極めて高いことを確認しました。

サンプル



事実に反する指摘ポイント

1. 「知られざる大量放出」

- ・「知られざる大量放出」は公知の事実である
- ・視聴者は「新たな大量放出が明らかになった」、「その原因が初めて解明された」と誤解する
- ・「原発にひそむ構造的な弱点」との放映は、明確な技術的判断ミス

2. 「ベントで大量の放射性物質が放出された」

- ・ヨウ素の濃度から原因をベントとするのは即断過ぎる
- ・ベントと10%を占める放出には時間的なずれがある
- ・ベント配管がフィルターの役割を果たすとは考えられない
- ・「ベントを繰り返すうちに水が溜まり始める」現象は実機では起こらない
- ・「しばらく水と蒸気が押し合う状態が続く」現象は実機では起こらない
- ・本実験は科学技術的正当性を主張する根拠になりえない
- ・「ベントを繰り返したことで起きたとみられる10%の大量放出」は

事実に反する 他

事実に反する指摘ポイント

3. 「3号機への少量の冷却水注入が却って放射性物質の発生量を増やした」

- ・今回明らかになった全体の75%を占める大量放出は、およそ2週間続いていました。その間、原子炉内部では消防車による注水が原因で放射性物質が出続けていました。それが格納容器の隙間からじわじわ漏れ出し、長時間の放出につながったと見られています。 このナレーションの殆どが誤りです。
- ・「消防車による注水がこの75%の大量放出につながった」とする放送内容は事実ではない。他

4. 「マニュアルなんて全然できていません」

- ・原子力発電所の運転のために詳細なマニュアルが整備されています。マニュアルや設備に不備があり、訓練が不足していたことも事実です。
- ・原子炉の専門家の発言は番組冒頭部分で紹介されたものです。貴協会の「正確な放送を行い、事実をゆがめたり、誤解を招いたりする放送はおこないません」と言う行動指針に沿った放送でしょうか？

メディア各紙の報道状況 - その1

- 1/16 電気新聞 ウェーブ:石川廸夫氏
「またも捏造－NHKスペシャル」
- 1/19 GEPR(アゴラHP):諸葛宗男氏
「間違いだらけのNHKスペシャル
－メルトダウン・知られざる大量放出」
- 1/19 促進会ニュースレター:諸葛宗男氏
「余りに多い誤った認識の報道」
- 2/2 電気新聞 ウェーブ:石川廸夫氏
「許しがたいNHK原子力報道-2」
- 2/3 電気新聞 記事
「エネ・原子力3団体
NHKに抗議書送付」
- 2/7 GoHoo トピックス
「Nスペ『知られざる大量放出』に
事実誤認」
原発関連団体がBPOに審理要請
- 2/12号 週刊新潮
「専門家138人がBPOに提訴！
NHKスペシャル『知られざる大量
放出』の捏造箇所」
- 3月号 エネルギーフォーラム:中村政雄氏
「嘘で固めたNHKスペシャル」
- 4/9 電気新聞 ウェーブ:石川廸夫氏
「許しがたいNHK原子力報道-3」

電氣新聞

2月3日付

昨年12月21日、NHKが放映したNHKスペシャル「メルトダウン・ファイナル5」は、東京電力福島第一原子力発電所事故について、3月15日午後以降の放射性物質放出に焦点を当てたもの。米軍の空母が記録してたデータを解析し、新たに、15日以降の2週間の放出量が同事故による放出放射性物質全体の75%にあたる事実が明らかになったとした。また3号機の5回目のベントで、配管内に蓄積した放射性物質が一気に放出され、全体の10%の大放出となつたなどとしている。

抗議書では、3月15日午後以降の大量放出については事故直後からデータが公開された新たな発見ではないことを指摘。さらには、福島第一の敷地境界における放射線測定記録においては、福島第一の敷地境界に目立った数値が計測されていなかつたこと、またベント配管内に放射性物質が蓄積されていたとしてもその量は少なく、大量放出につながつたとの推論には無理があることなどを、科学的根拠を示

ししつつ反論した。

エネルギー問題に発言する会（金氏類代表幹事）、日本原子力学会シニアアーネットワーク連絡会（小川博巳会長）、エネルギー戦略研究会（金子熊夫会長）の3団体。抗議書には136人が署名した。

対し抗議書を送付するとともに、放送倫理・番組向上機構（BPO）の放送倫理検証委員会に対し審査願を行つた。

抗議を行つたのはエネ

ルギー問題に発言する会（金氏類代表幹事）、日本原子力学会シニアアーネットワーク連絡会（小川博巳会長）、エネルギー戦略研究会（金子熊夫会長）の3団体。抗議書には136人が署名した。

「これらの「明らかに事実に反する」4点の誤りに基づいた番組構成により、視聴者に原子力への不安感を必要以上に抱かせる」として、公明正大な番組づくりを要望している。

エネ・原子力関係3団体

NHKに抗議書送付

福島第一事故番組で

「メルトダウン・ファ

イル5」は、東京電力福島第一原子力発電所事故について、3月15日午後以降の放射性物質放出に焦点を当てたもの。

米軍の空母が記録して

いたデータを解析し、新

たに、15日以降の2週間

の放出量が同事故による

放出放射性物質全体の75

%にあたる事実が明らか

になったとした。また3

号機の5回目のベント

で、配管内に蓄積した放

射性物質が一気に放出さ

れ、全体の10%の大放出となつたなどとしている。

抗議書では、3月15日

午後以降の大量放出につ

いては事故直後からデータが公開された新たな発見ではないことを指摘。さ

らに5回目のベントが行

われた15日午後4時につ

いては、福島第一の敷地境界

における放射線測定記録

においては、福島第一の敷地境界に目立つた数値が計測さ

れていなかつたこと、またベント配管内に放射性

物質が蓄積されていいたと

してもその量は少なく、大量放出につながつたと

の推論には無理があることなどを、科学的根拠を示

しつつ反論した。

メディア各紙の報道状況

<http://gohoo.org/15020701/>

報道を変える。見る目が変わる。



非営利の一般社団法人 日本報道検証機構
報道の正確性などを検証し、
「報道品質」向上やメディア・リテラシーに
有益な情報を提供



「Nスペ『知られざる大量放出』に事実誤認」

原発関連団体がBPOに審理要請

メディア各紙の報道状況



週刊新潮

あの不幸な事故から4年
近くが経過した。福島第一
原発から放出された放射能
に汚染された区域は、今な
お10万人が住み慣れた家に
帰れずにはいるが、「一刻も早く
く除染が進んで被災者が復
帰されることを、願わない
人はいないだろう。

そんなときに、「実は、今
にいたるまで 알려ていな
かった放射能の大規模放出が
人ではないだろう。
されば、思つていい以
て健康への影響があるの
はないか」と疑心暗鬼にな
つても不思議ではない。
そんな衝撃的な内容を伝
えたのは2月12日である。専
門家138人がBPOに提訴した
年12月21日に放送されたNHK
スペシャルだ。

(左上は各紙別刷に添付した本堂印)

週刊新潮 2月12日号

吉田市長より反論したかったらどう
(中央は猪木アキヒコ氏)

放射能の大規模放出があった
ことが初めてわかつたなど
して、完全にウソ。知られ
ざる大量放出。って、知ら
なかつたのはNHKだけな
のに、厚顎をくる」

そう語るのは、北関道大
学元教授の石川達夫氏。東
京大学の元准教授、猪木
宣男氏も言う。

「番組中で福井奈穂子アナ
が、この4日の間に起きたな
ど、完全にウソ。知られ
ざる大量放出。って、知ら
なかつたのはNHKだけな
のに、厚顎をくる」

あれ、次々とマルトダウン
した原子炉は、公知の事
実。の原因が、円筒ドラマ
や専門家のコメントを織り
込みながら、書き用かして
いった……。

昨年末に放送されたNHKスペシャル「知
られざる大量放出」。原発事故から4年近く
経つてわかつた「新たなる真実」の数々に、震
え上がつた視聴者も多かつたようだが、13
人の専門家がBPOに提訴したのだ。「ウ
ソ」だと指摘された問題の箇所とは――。

NHKも「新たなる真実」
と断じる原上よし子氏
があるはずだ――。そう思
いたくなるところだが、
一系は兎も親なしで豪傑を
見始めたのですが、音頭通
じたという感想を持ちまし
た。看板替り後、数十件の
メールが届き、章に向じく
する人たちで集まりました。

NHKも「新たなる真実」
と断じる原上よし子氏
エネルギーの専門人士が、1
3人の専門家がBPOに提訴したのだ。「ウ
ソ」だと指摘された問題の箇所とは――。
ある。名を連ねた原子力や
エネルギーの専門人士が、1
3人の専門家がBPOに提訴したのだ。「ウ
ソ」だと指摘された問題の箇所とは――。

津波によつて全電源が失
われ、次々とマルトダウン
した原子炉は、公知の事
実。の原因が、円筒ドラマ
や専門家のコメントを織り
込みながら、書き用かして
いた……。

ナレーランションは、
「内臓などに、このわざ
は、読者もご記憶のことだ
ろう。この対応について著
者は振り下けていく。
(原子炉を冷やすために行
われていたのが消防車によ
る注水です。本来消防用の
設備だった配管を使って原
子炉に水を注ぐという、ま
た可動性を指す。原発事故
解説の専門家たる、エネ
ルギー総合工学研究所の内
藤正樹氏の、
「水を入れたことによって、
固めて、放射性物質が閉じ
させてあがつた熱射の温度
がさらると上がる。で、また

対応して――)

というナレーションの後、
注水が少ししか届かなかつ
たことを指す。原発事故
などを見ても、一日隠蔽で、
それをもじろかづけたな
んて、現実を隠じ掛けたと
しか言いようがない」

たしかに当時、3月15日
をすぎてから報道側方向に
風が吹き、放射能を漏らせ
てしまつたら、各マスコミ
も報道していた。

石川 迪夫

いしかわ。みちおは原子力コミュニケーション
研究会会長。北海道大学工学部教授、日本原子力
技術協会（現原子力安全推進協会）最高顧問など
を歴任。原子力発電とその安全性が専門。81歳。



%に過ぎず、金の25
%に過ぎず、金の25
えられたとき考
の4時間で放
の大半は最初
で放射性物質

ウェーブ

これに対しNHKは「5%とい
て、相違を明示した。
これに対する回答は「5%とい
て、相違を明示した。
反し、「大量放出は、当時から公
とが今も判明」との報道が事実に
我々はこの点を重く見た。「75
%が15日午後になってから公
とアラウンドの後押し、誰が見て
いたと思うだろう。
も、民間の知らない大量放出が実
在したと思うだろう。

だが、NHKの回答は変化はな
い」とらしい。
正直性は専門家の出
演出した所にあるとい
う」とらしい。
青年家が昔の論文で、当該放出量
が75%以上あると発表した事実も
報していたこと、番組は専門家
が75%以上あると発表した事実も
対する再掲示事項と適切な報道
に応じて再考のお願い」を再度提
出した。

その中で、15日午後以降の大量
放出は当時のNHKニュースでも
報じていたこと、番組は専門家
が75%以上あると発表した事実も
対する再掲示事項と適切な報道
に応じて再考のお願い」を再度提
出した。

—3

許し難いNHK原子力報道

2015.4.9 電気新聞・時評

2015.4.9

メディア各紙の報道状況

おやおやマスゴミ

中村政雄
科学ジャーナリスト

嘘で固めたNHKスペシャル

NHKの原子力報道のインチキ
性は相変わらずだ。1月16
日付電気新聞の時評「ウェーブ」
で石川迪夫元北海道大学教授が
「許し難いNHK原子力報道」のタ
イトルで怒りをぶちまけていた。

「嘘をまぶして、ペテンでこね
て、でっち上げたこの番組」と、
こてんばんにこき下ろしたのが昨
年12月21日放送された「

2015/3 エネルギーフォーラム
新事実」として報道する部分だ。
実験結果は尊重するが、直径約
35cmもある太いイベント管に対し
て、細管での実験が当を得ている

2015/3

は15日午前6時と16日午前0時
で、NHKがいう時間帯ではない。
(NHKの放送が正しければ) 排気
筒からの放出放射能は、半日近く
も測定されずに雲隠れしていたこ
とになる。子どもでも気づく間違
いだ】

「第3の嘘は、この放射能が全
体放出の10%を占め、ヨウ素
島も含む」というふうに書いた。メー
リーナ・アーヴィングは、この報道が「
反原発ムード醸成作だとの意見が
議をする気運を高めよう」として、

化していない。こんな風に
を「真実」の名で放送し、
放射線作業を継続した運転
心を傷つける」

この番組は私も見た
ンタリー風で迫力があ
も真実らしく見える。

固めた「真実」だと
作の意図は何だった
島も含む

ひ交い

に書いた。メー
リーナ・アーヴィングは、この報道が「
反原発ムード醸成作だとの意見が
議をする気運を高めよう」として、

メディア各紙の報道状況 - その2

6月号 エネルギーフォーラム・ニュースファイル

「NHKが根負け！？
原子力報道に変化」

9月号 エネルギーフォーラム：早野睦彦氏

「NHKが失った公正な報道
国民の不安煽る大量放出」

9月号 WEDGE：石川廸夫氏

「福島の教訓に基づく
正しい原子力規制とは」

9月号 エネルギーレビュー：小川博巳

「公共放送NHKの自覚を問う」

9月号 エネルギーレビュー：牧英夫氏

「NHK原子力報道を考える(上)」

10月号 エネルギーレビュー：牧英夫氏

「NHK原子力報道を考える(中)」

11月号 エネルギーレビュー：準備中

「NHK原子力報道を考える(下)」

11月号 歴史通-対談記事：準備中

「NHK-知られざる大量放出-
2号機と3号機を取り違え、
頬かぶり」

メディア各紙の報道状況

接 稿

上
NHK原予力報道を考える

中
「実事に反する4項目」
2014年12月23日放送
元日立製作所取締役
「エネルギー」が報道すべき
報道を考へる

牧 英夫

エネルギーレビュー誌 9月・10月号

11月号は準備中

出しだが、これらの内訳を三回に分けて個人の意見で紹介する。



メディア各紙の報道状況 - その2

6月号 エネルギーフォーラム・ニュースファイル

「NHKが根負け！？
原子力報道に変化」

9月号 エネルギーフォーラム：早野睦彦氏

「NHKが失った公正な報道
国民の不安煽る大量放出」

9月号 WEDGE：石川廸夫氏

「福島の教訓に基づく
正しい原子力規制とは」

9月号 エネルギーレビュー：小川博巳

「公共放送NHKの自覚を問う」

9月号 エネルギーレビュー：牧英夫氏

「NHK原子力報道を考える(上)」

10月号 エネルギーレビュー：牧英夫氏

「NHK原子力報道を考える(中)」

11月号 エネルギーレビュー：準備中

「NHK原子力報道を考える(下)」

11月号 歴史通-対談記事：準備中

「NHK-知られざる大量放出-
2号機と3号機を取り違え、
頃かジリ

これほど多数の報道・反響は 何か？
= NHK抗議 に対する メディア各誌の賛同！

原子力専門家 メディア対応

学会倫理規程: 事実を尊重し、科学的に明白な間違いに対するは毅然とした態度でその間違いを指摘し、是正するよう努める。

- ① 錚々たる専門家が協力
- ② 短時間ではなく、協議を繰り返し
- ③ 結果的には、専門家の協力・出演が
公正・公平な番組制作と放送に繋がらなかつた
- ④ 何故か？ メディアへの抗議の継続…
- ⑤ 原子力専門家の対応姿勢の反省
- ⑥ 学会への提言：
『原子力専門家のメディア対応の心得』

原子力専門家 メディア対応の心得

学会倫理規程: 事実を尊重し、科学的に明白な間違いに対するは毅然とした態度でその間違いを指摘し、是正するよう努める。

① 事前の確認

- ・ メディアの報道主旨を事前確認
- ・ 記事・放送の全体シナリオ確認
- ・ 誓約の事前取得

正確な情報活用

コメント修正の受入

② 情報提供の在り方

- ・ 科学技術的に検証済の情報
- ・ 国民に解り易く伝える配慮
- ・ 可能な限りエビデンスを残す

③ 提供後の確認

- ・ 記者が正しく理解したことを確認すべし
- ・ 提供情報がどう使われたか
記事原稿の確認
放映前のプレビュー

④ 認識を改めよ

- ・ メディアを介して国民に説明
- ・ 発言の細切れ使用に要注意
- ・ 提供情報の全責任は専門家

裏返せば -- メディア報道の心得

学会倫理規程: 事実を尊重し、明確に明白な間違いに対する指摘し、是正するよう努める。

① 事前の確認

- ・ メディアの報道主旨を事前確認
- ・ 記事・放送の全体シナリオ確認
- ・ 誓約の事前取得

正確な情報活用

コメント修正の受入

② 情報提供の在り方

- ・ 科学技術的に検証済の情報
- ・ 国民に解り易く伝える配慮
- ・ 可能な限りエビデンスを残す

③ 提供後の確認

- ・ 記者が正しく理解したことを確認すべし
- ・ 提供情報がどう使われたか
記事原稿の確認
放映前のプレビュー

④ 認識を改めよ

- ・ メディアを介して国民に説明
- ・ 発言の細切れ使用に要注意
- ・ 提供情報の全責任は専門家

NHKへの抗議

－ 原子力報道の在り方を問う－

公共放送としての NHKの自覚を！

我が国の
エネルギー安全保障は
原子力が柱